

《最近の県内経済》 (2026年5月を中心として)

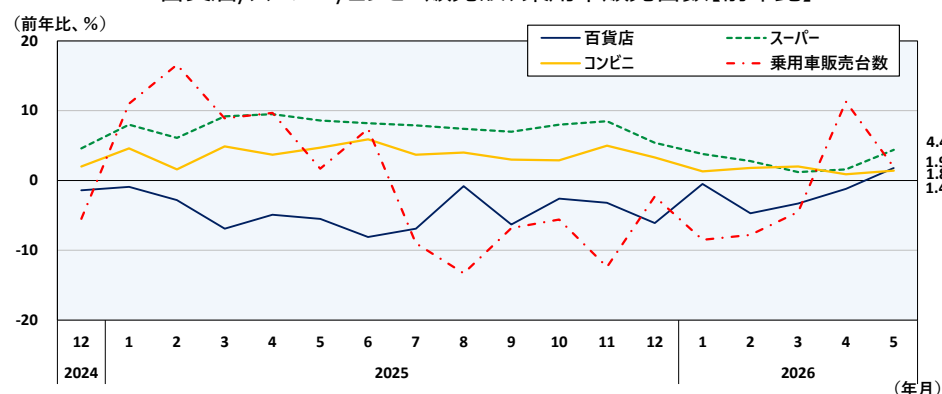
今月の概要

中東情勢の影響から先行きは不透明ながら、
足許は緩やかに回復している



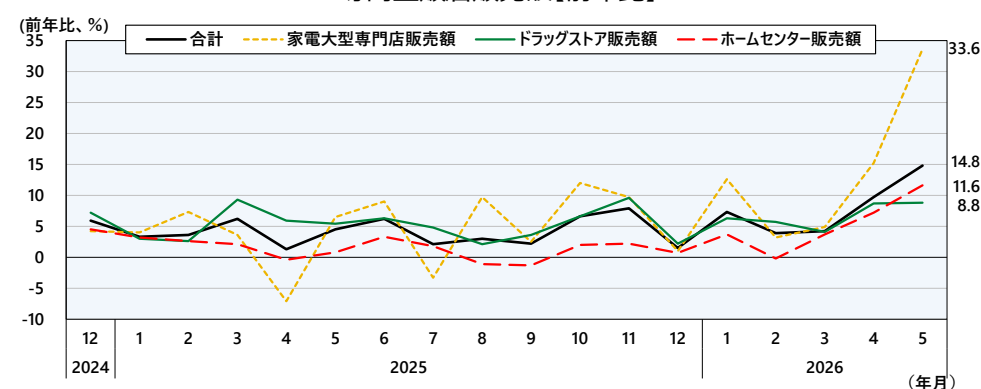
1 個人消費 ～緩やかに持ち直している ➡

百貨店/スーパー/コンビニ販売額、乗用車販売台数【前年比】



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

専門量販店販売額【前年比】



(資料) 経済産業省

個人消費は、緩やかに持ち直している。

5月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）をみると、百貨店は117億円で前年比1.8%増（23か月ぶりの増加）、スーパーは1,203億円で同4.4%増加（44か月連続の増加）した。また、コンビニ販売は609億円で同1.4%増加（25か月連続の増加）した。物価高を受けた節約志向が見られるものの、単価上昇による売上げ押し上げ効果が続いている。

また、乗用車販売は、前年比1.9%増と2か月連続の増加となった。内訳をみると、普通車が同10.2%増（2か月連続の増加）、小型車が同5.3%増（2か月連続の増加）、軽自動車が同9.7%減（2か月連続の減少）となった。

普通車、小型車の一部車種において、供給制約が改善し販売増に寄与した。

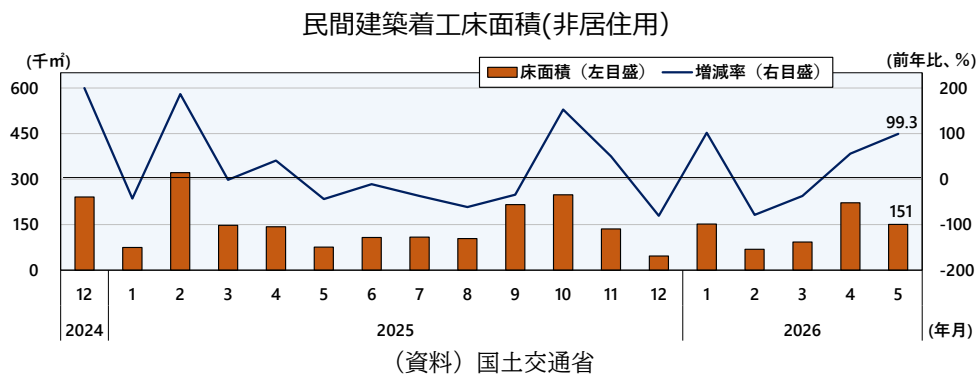
5月の専門量販店販売額は950億円で前年比14.8%増と44か月連続で増加した。内訳をみると、家電大型専門店が239億円で同33.6%増（10か月連続の増加）、ドラッグストアが488億円で同8.8%増（48か月連続の増加）、ホームセンターが223億円で同11.6%増（3か月連続の増加）となった。

家電大型専門店では、エアコンについて、2027年問題（省エネ基準の大幅引上げ）に伴う価格上昇が広く認知される中、需要が増加したほか、携帯電話も引き続き好調であった。

ホームセンターでは、中東情勢悪化の影響による石油関連商品の需要が強い状況が継続した。

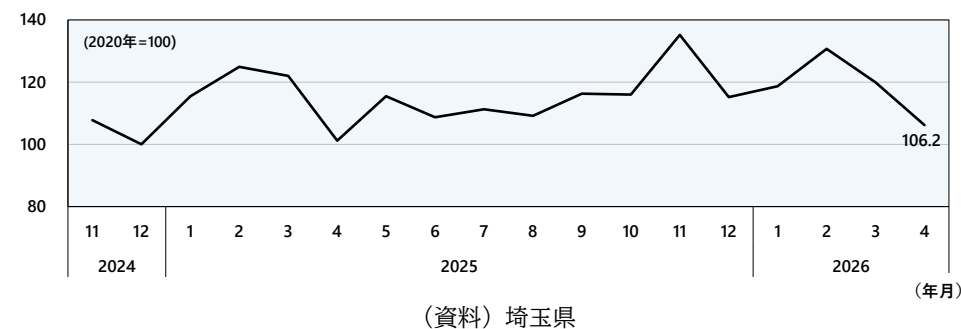
関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、4月〈32.6〉、5月〈33.8〉6月〈34.4〉、と推移している。

2 設備投資～増加基調にある ➡



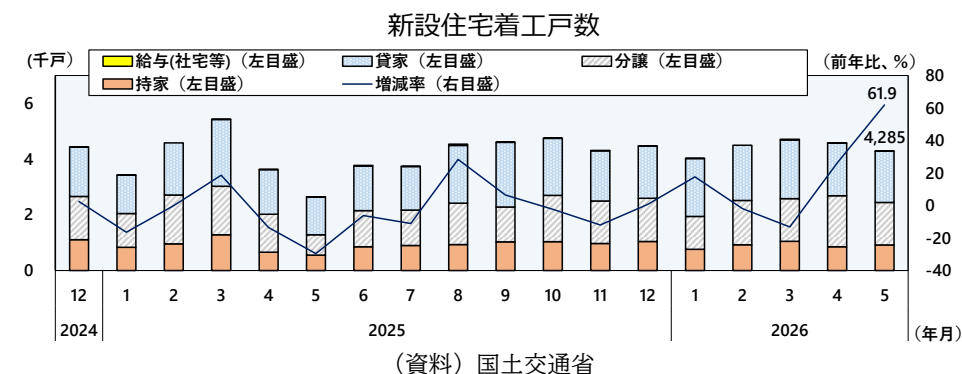
5月の民間建築着工床面積(非居住用)は、151千㎡で前年比99.3%増加した(5か月後方移動平均では、前年比9.9%減少)。
用途別にみると、店舗、工場及び作業場、学校の校舎は減少したものの、事務所、倉庫、病院・診療所は増加した。

資本財出荷指数(季節調整済)



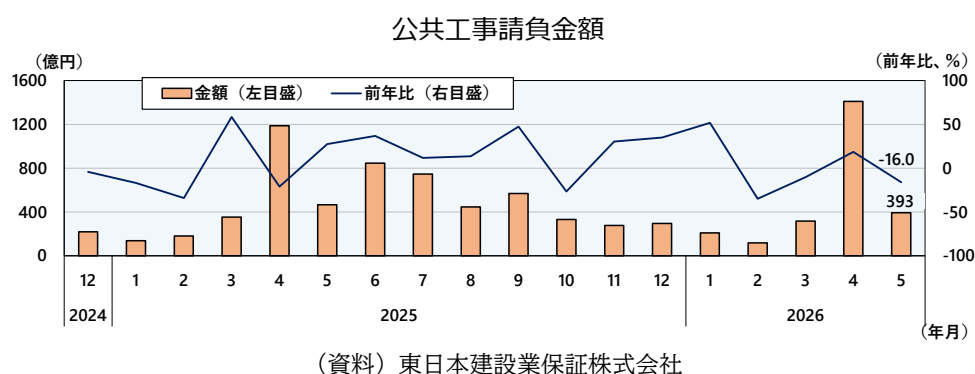
4月の資本財出荷指数(季節調整済)は106.2で、前月比11.4%減少した(5か月後方移動平均では、118.1で前年比4.8%増加)。

3 住宅建設～弱含んでいる ➡



5月の新設住宅着工戸数は、前年の落ち込みの裏要因から、4,285戸で前年比61.9%増加した(5か月後方移動平均でも、4,419戸、前年比12.1%増)。利用関係別にみると、持家(920戸)が同65.8%増、貸家(1,839戸)が同35.3%増、分譲マンション(523戸)が同730.2%増、分譲一戸建て(993戸)が同50.7%増となった。

4 公共工事～底堅く推移している ➡

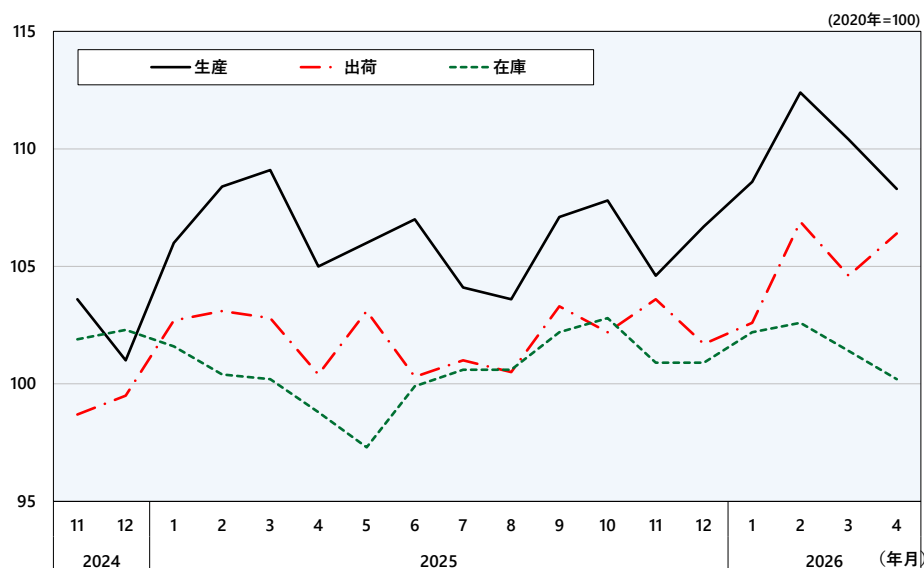


5月の公共工事請負額は393億円、前年比16.0%減少した。5か月後方移動平均では、490億円、前年比5.1%増で推移。

発注者別の前年比をみると、その他は増加したものの、国、独立行政法人等、都道府県、市区町村は減少した。

5 生産活動～底堅く推移している ➡

鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済)



(資料) 埼玉県

4月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、108.3で前月比1.9%低下(2か月連続の低下)した。

食料品(アイスクリーム、チョコレート類)、非鉄金属(伸銅製品、ダイカスト)などが上昇したが、輸送機械(機関部品、駆動伝導及び操縦装置部品)、化学(医薬品、シンナー)などが低下した。

出荷指数(同)は、106.4で同1.7%上昇(2か月ぶりの上昇)した。

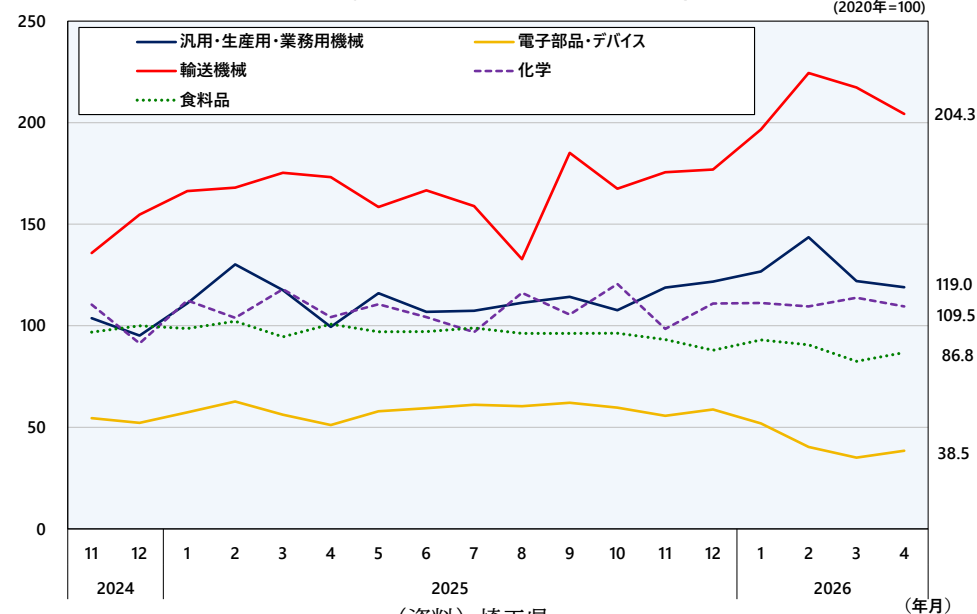
生産用機械(半導体製造装置、マシニングセンタ)、情報通信機械(金銭登録機(端末機能付)、搬送装置)などが低下したが、化学(医薬品、化粧品)、食料品(アイスクリーム、チョコレート類)などが上昇した。

在庫指数(同)は、100.2で同1.2%低下(2か月連続の低下)した。

非鉄金属(伸銅製品、銅電線)、情報通信機械(金銭登録機(端末機能付)、ガス警報器)などが上昇したが、電気機械(電気計器、クッキングヒーター)、窯業・土石製品(ポルトランドセメントクリンカ、セメント)などが低下した。

(注) 埼玉県は2025年分の年間補正を行い、2025年1月～2026年3月までの指数を再計算している。

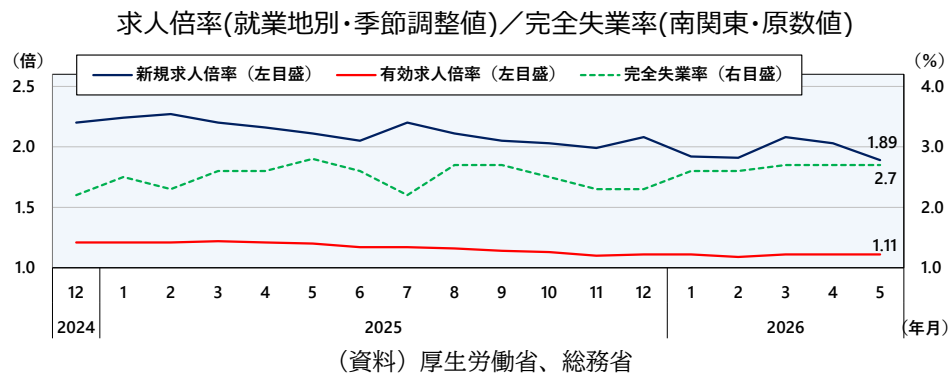
主要業種の生産指数(季節調整済)



(資料) 埼玉県

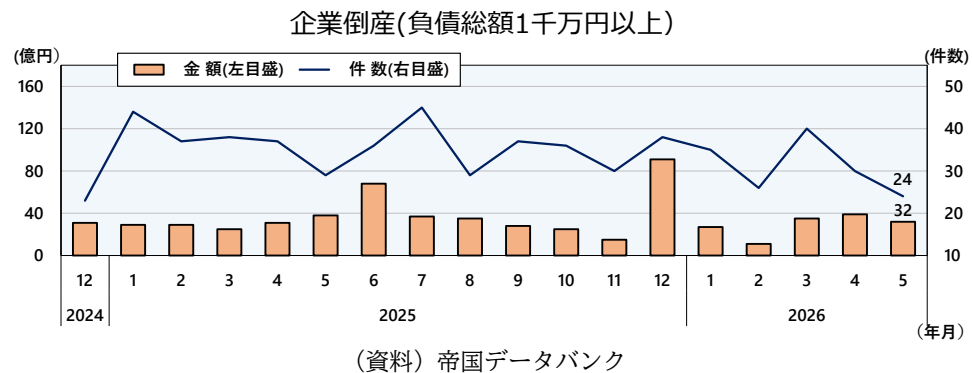
- ・汎用・生産用・業務用機械の生産指数(季節調整済)は、119.0で前月比2.4%下降し、2か月連続の下降となった。
- ・電子部品・デバイス(同)は、38.5で同9.7%上昇し、4か月ぶりの増加となった。
- ・輸送機械(同)は、204.3で同6.0%下降し、2か月連続の下降となった。
- ・化学(同)は、109.5で同3.8%下降し、2か月ぶりの下降となった。
- ・食料品(同)は、86.8で同5.2%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

6 雇用情勢 ～緩やかに持ち直している ➡



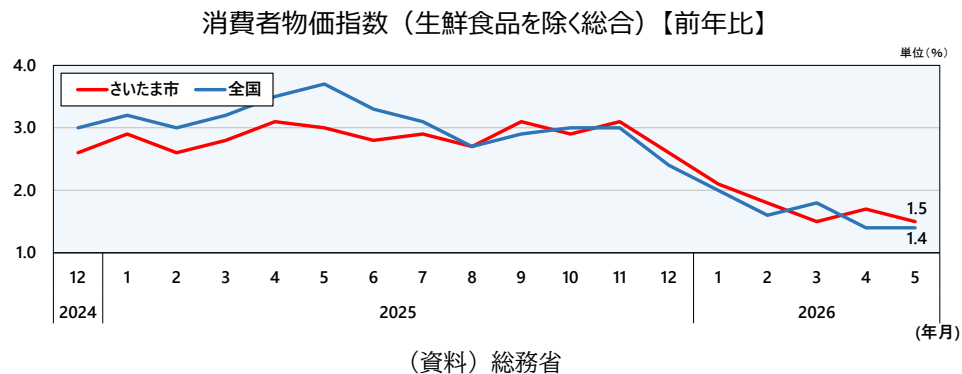
5月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、1.11倍で前月比横ばいとなった。新規求人倍率(同)は、1.89倍で同比0.14ポイント下降した。
また、完全失業率(南関東、原数値)は、2.7%で前年同月比0.1ポイント下降した。(前年同月比6か月ぶりの下降)。

7 企業倒産 ～緩やかな増加基調にある ➡



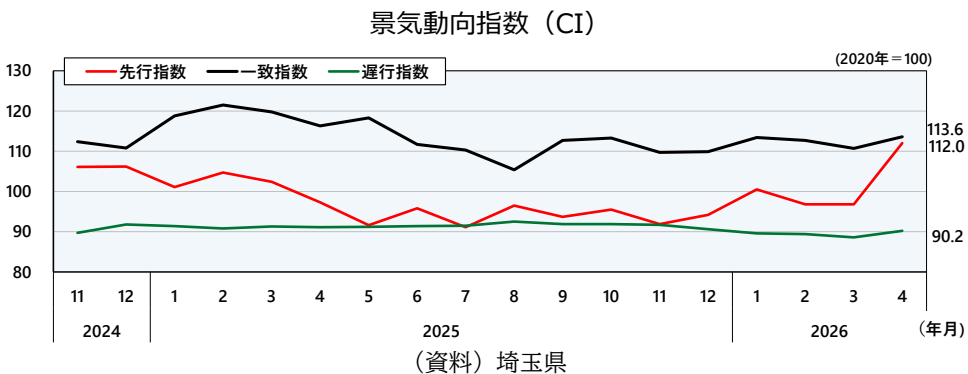
5月の企業倒産件数は24件で前年同月比5件減少した。また、負債総額は32億円で同比6億円減少した(5か月後方移動平均では、件数は前年比6件減少、負債総額は1億円減少)。
業種別にみると、建設業が最多で7件、次いで小売業が6件、サービス業が5件となっている。主因別では、販売不振が21件となっている。

8 消費者物価 ～緩やかに上昇している ➡



5月の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、111.7で前年同月比1.5%上昇した(56か月連続の前年同月上昇)。
食料(菓子類(チョコレートなど))、交通・通信(通信(通信料(携帯電話)など))などが上昇し、全体を押し上げている。

〈参考〉景気動向指数(CI)～下方への局面変化を示している



- ・4月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、113.6で前月比1.3ポイント上昇し、3か月ぶりの上昇となった。
- ・CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、112.0で同11.5ポイント上昇し、2か月連続の上昇となった。
- ・CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、90.2で同1.8ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。